

アイフル 株式会社

証券コード 8515

# アイフル通信

第43期 中間報告 2019.4.1 ▶ 2019.9.30



ぽっぽくん アイフルチャットボットキャラクター

Vol.47  
December 2019

 AIFUL



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2020年3月期第2四半期の  
決算業況についてご報告申し上げます。

当社グループを取り巻く経営環境は、消費者・事業者向けのローンやクレジットカードなどの国内での金融事業、アセアンを中心とした海外事業、いずれにおきましても今後安定した成長が見込めます。一方で、消費者金融業界の事業リスクである利息返還請求については、ピーク時から大きく減少し、足元においては減少トレンドがより鮮明となったものの、未だ注視が必要な状況が続いております。

このような経営環境のもと、当社グループは「誠実な企業活動を通じて、社会より支持を得る」を経営理念として、お客様の健全な消費活動や事業活動のサポートを通じて経済社会に貢献することを使命とし、国内外で信頼され、必要とされるグローバル金融グループを目指しております。

## ♥ 2020年3月期第2四半期の業績について

2020年3月期第2四半期においては、経営の重要課題である利息返還請求に対応しつつ、金融事業の多角化やグループ全体での営業アセットの拡大に努め、「安全性」「収益性」「成長性」のバランスを重視した経営に取り組んでまいりました。

当第2四半期の収益面については、主力事業であるローン事業や信用保証事業を中心とした営業アセットの拡大に伴う営業貸付金利息や信用保証収益の増加を主な要因として、612億円(前年同期比9%増)となりました。

また、費用面においては、調達コストの低下により金融費用が減少した一方、営業アセットの増加などにより貸倒関連費用が増加したことを主な要因に、566億円(同10%増)となりました。

以上の結果、営業利益が46億円(同3%減)、経常利益が49億円(同8%減)となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益は、特別利益の2億円や非支配株主に帰属する純損失7億円を計上した結果、52億円(同1%増)となりました。



## 2020年3月期の計画について

2020年3月期の連結業績予想については、当第2四半期の結果を踏まえ、営業収益が1,251億円(前期比9%増)、営業費用が1,106億円(同2%減)を見込んでおります。

その結果、営業利益が144億円(同375%増)、経常利益が154億円(同275%増)、親会社株主に帰属する当期純利益が144億円(同54%増)を計画しております。

今後の当社グループにおきましては、経営の最重要課題である利息返還請求へ対応しつつ、金融事業の多角化による事業ポートフォリオの組換えや更なる営業アセットの増加に努めるとともに、資金調達の多様化による財務基盤の強化やグループ全体での事業効率の向上を目指してまいります。また、コーポレートガバナンスにおいては、今後の経営環境の変化に的確に対応すべく、引き続き社内規程や内部管理態勢の強化に努め、コンプライアンス態勢の充実を図ってまいります。

今後もすべてのステークホルダーの皆様のご支援・ご期待にお応えできるよう、全力を尽くしてまいります。株主の皆様におかれましては、より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2019年12月

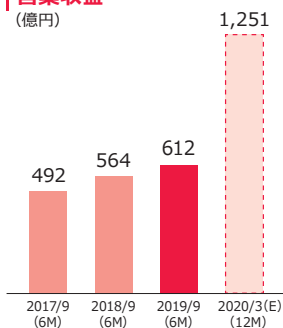
アイフル株式会社 代表取締役社長

福田 名 彦



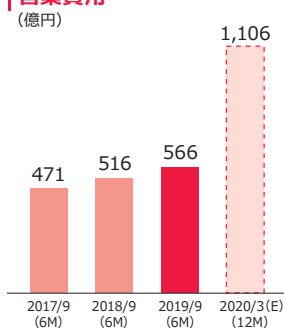
## 営業収益

(億円)



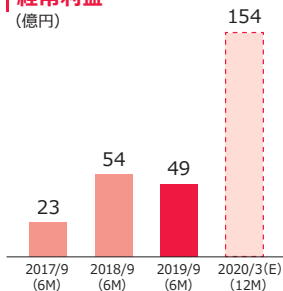
## 営業費用

(億円)



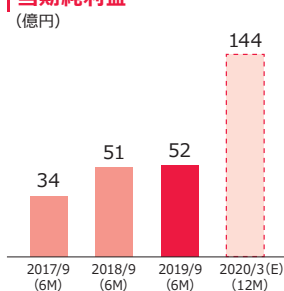
## 経常利益

(億円)



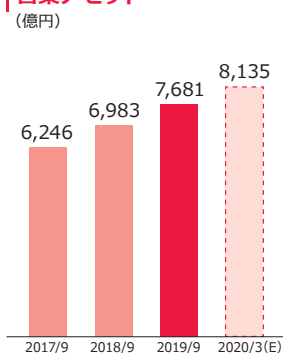
## 当期純利益

(億円)



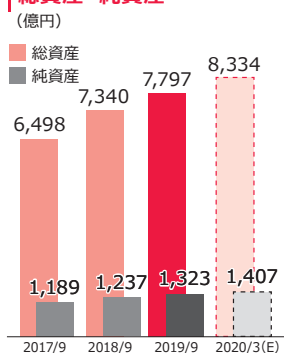
## 営業アセット

(億円)



## 総資産・純資産

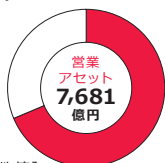
(億円)





## ローン事業(国内)

5,221億円(比率68%)



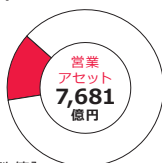
[主要数値]

無担保 ローン	4,409億円 (前年同期比+8%)
------------	-----------------------

事業者 ローン	600億円 (前年同期比+17%)
------------	----------------------

## クレジットカード事業

1,041億円(比率14%)



[主要数値]

買上実績	3,497億円 (前年同期比+2%)
------	-----------------------

割賦売掛金 残高	1,041億円 (前年同期比+6%)
-------------	-----------------------

### 📍ローン事業

国内でのローン事業は、無担保ローンの増加を主な要因として、当第2四半期末で5,221億円(前年同期比9%増)となり、このうち、無担保ローンの残高は4,409億円(同8%増)となりました。

アイフルにおいてはテレビCMやWEB、SNSを利用した積極的な宣伝広告を行いつつ、スマホサイトのリニューアルやカードレス取引などにより、お客様の利便性向上に取り組んでおります。その結果、当期の新規申込件数は前期並みの24万1千件(同5%増)、新規成約件数は10万3千件(同2%減)となりました。

アイフルの当第2四半期末のローン残高は4,141億円(同9%増)、このうち無担保ローンの残高は3,982億円(同10%増)となりました。

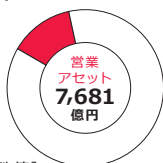
このほか、事業者ローンを取り扱うビジネストにおいては、事業者向けの与信ノウハウを活かし、引き続き個人事業主や中小企業のニーズに合わせた商品・サービスを提供しております。その結果、当第2四半期末でのビジネストのローン残高は642億円(同20%増)となりました。

### 📍クレジットカード事業

ライフカードが行うクレジットカード事業では、病院・大学との提携カードやタイアップカードなど、独自のユニークな商品・サービスの提供により入会申込の拡大に努めております。また、利用限度額の増額推進や法人・個人事業主向けのサービス拡充などにより、カード会員の利便性向上に取り組みました。その結果、当

## 信用保証事業

1,104億円(比率14%)



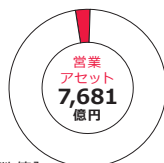
[主要数値]

個人向け  
保証残高 : 950億円  
(前年同期比+22%)

事業者向け  
保証残高 : 153億円  
(前年同期比+25%)

## 海外事業

216億円(比率3%)



[主要数値]

口座数 : 35万件  
(前年同期比+7%)

貸付残高 : 216億円  
(前年同期比+3%)

第2四半期末の有効カード会員数は575万人(前年同期比0.2%増)、カード買上額は3,497億円(同2%増)となり、連結ベースの割賦売掛金残高は1,041億円(同6%増)となりました。

## 信用保証事業

信用保証事業においては、個人および事業者の与信ノウハウや独立系の強みである「柔軟性とスピード」を活かし、保証提携先拡大に向けた積極的な営業や新商品の提案・販売促進に取り組み、アイフル、ライフカードの双方で保証残高の拡大に努めております。その結果、当第2四半期末における信用保証残高は1,104億円(前年同期比22%増)となり、個人向け無担保ローン保証残高は950億円(同22%増)、事業者向け保証残高は153億円(同25%増)となりました。

## 海外事業

タイ王国の無担保ローンマーケットは、経済成長に伴う消費拡大により引き続き拡大しております。このような中、消費者金融業を営むAIRA&AIFULは債権ポートフォリオの良質化を図るため優良顧客の獲得に取り組んでおります。その結果、当第2四半期末における口座数は35万件(前年同期比7%増)、当第2四半期末のローン残高は216億円(同3%増)となりました。(AIRA&AIFULは12月決算のため、口座数・貸付残高はともに2019年6月末時点での実績となります。)



## 連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

[資産の部]	前期末 (2019年3月31日)	当第2四半期末 (2019年9月30日)
<b>流動資産</b>	718,006	736,044
現金及び預金	36,112	23,669
① 営業貸付金	457,785	483,845
② 割賦売掛金	101,584	100,979
営業投資有価証券	1,209	1,349
③ 支払承諾見返	140,343	146,919
買取債権	2,472	2,487
その他	24,633	26,010
④ 貸倒引当金	△ 46,135	△ 49,217
<b>固定資産</b>	42,581	43,658
有形固定資産	16,758	16,795
無形固定資産	3,297	3,354
投資その他の資産	22,524	23,508
<b>資産合計</b>	760,587	779,702

(注)記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しています。

(注)その他は1円桁まで足した数値を記載しております。

### ① 営業貸付金

ローン事業の無担保ローン残高の増加を主な要因として、会計ベースの営業貸付金残高は前期末比260億円増(同6%増)の4,838億円となりました。なお、流動化による調達のため、営業貸付金の一部をオフバランスとしております。

### ② 割賦売掛金

クレジットカード事業の買上額やリボ・分割払の残高増加を主な要因として、ライフカードの包括信用購入あっせん事業にかかる割賦売掛金残高は前期末比5億円減の1,006億円(同1%減)となりました。

### ③ 支払承諾見返

信用保証事業が順調に推移した結果、オフバランスとした営業貸付金(流動化債権)に対する保証を含めた会計ベースの支払承諾見返残高は前期末比65億円増(同5%増)の1,469億円となりました。

### ④ 貸倒引当金

当第2四半期において、貸倒損失の発生分172億円(うち、利息返還請求に係る債権放棄は5億円)を引当金から取り崩した一方、208億円の繰入を行った結果、貸倒引当金は前期末比30億円増(同7%増)の492億円となりました。なお、利息返還請求にかかる債権放棄の引当金は、前期末比5億円減(同20%減)の20億円となり、利息返還請求以外の貸倒引当金は、前期末比35億円増(同8%増)の471億円となりました。



(単位：百万円)

	前期末 (2019年3月31日)	当第2四半期末 (2019年9月30日)
<b>[負債の部]</b>		
<b>流動負債</b>	380,277	383,336
支払手形及び買掛金	21,076	16,911
支払承諾	140,343	146,919
⑤ 短期借入金	86,562	83,250
1年内償還予定の社債	7,370	7,370
1年内返済予定の長期借入金	98,728	102,994
その他	26,196	25,890
<b>固定負債</b>	252,292	264,018
⑤ 社債	20,245	35,160
⑥ 長期借入金	205,803	208,941
⑥ 利息返還損失引当金	22,963	16,467
その他	3,280	3,448
<b>負債合計</b>	632,570	647,354
<b>[純資産の部]</b>		
<b>株主資本</b>	123,807	129,052
⑦ 資本金	143,454	94,028
資本剰余金	13,948	13,948
利益剰余金	△ 30,485	24,186
自己株式	△ 3,110	△ 3,110
その他の包括利益累計額合計	238	239
新株予約権	230	-
非支配株主持分	3,741	3,056
⑧ 純資産合計	128,016	132,348
<b>負債純資産合計</b>	760,587	779,702

**⑤ 有利子負債**

金融機関からの借入や公募社債の発行など、資金調達が多様化を進めた結果、有利子負債は前期末比150億円増(同3%増)の5,081億円となりました。また、平均調達金利は前年同期比20bp減の1.54%となっております。

**⑥ 利息返還損失引当金**

利息返還金64億円(前年同期比3%減)を引当金から取り崩したため、利息返還損失引当金残高は164億円となりました。なお、利息返還請求にかかる債権放棄の引当金取り崩し分5億円と合わせて、利息返還損失関連の引当金総額は前期末比70億円減(同27%減)の184億円となりました。

**⑦ 資本金**

2019年6月25日開催の定時株主総会の決議に基づき、繰越利益剰余金の欠損を填補し、財務内容の健全化を図るとともに、今後の資本政策の機動性および柔軟性を図るため494億円の減資を行っております。

**⑧ 純資産**

純資産は、親会社株主に帰属する当期純利益を計上したことを主要因として前期末比43億円増(同3%増)の1,323億円となりました。



# 連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

	前第2四半期 累計期間 (2018年4月1日から 2018年9月30日まで)	当第2四半期 累計期間 (2019年4月1日から 2019年9月30日まで)
⑨ 営業収益	56,425	61,277
営業貸付金利息	32,154	35,000
包括信用購入あっせん収益	7,897	8,648
信用保証収益	6,768	7,499
その他の営業収益	9,605	10,128
⑩ 営業費用	51,669	56,655
金融費用	4,185	3,735
貸倒関連費用	16,023	20,852
その他の営業費用	31,460	32,068
人件費	8,309	8,353
宣伝関連費用	5,596	5,493
広告宣伝費	1,491	1,376
販売促進費	4,104	4,117
⑪ 営業利益	4,755	4,621
営業外収益	666	334
営業外費用	17	7
⑪ 経常利益	5,404	4,948
⑫ 特別利益	-	230
税金等調整前当期純利益	5,404	5,178
法人税、住民税及び事業税等	464	965
法人税等調整額	△ 6	△ 250
当期純利益	4,945	4,464
非支配株主に帰属する当期純利益	△ 242	△ 781
⑬ 親会社株主に帰属する当期純利益	5,188	5,245

(注) 記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しています。

#### ⑨ 営業収益

営業貸付金残高の増加に伴い、営業貸付金利息収入が前年同期比28億円増(同9%増)の350億円となったほか、クレジットカード事業においては包括信用購入あっせん収益が前年同期比7億円増(同10%増)の86億円、保証事業における信用保証収益が前年同期比7億円増(同11%増)の74億円となったことが主な要因となります。その結果、営業収益は前年同期比48億円増(同9%増)の612億円となりました。

#### ⑩ 営業費用

調達コストの低下により、金融費用が前年同期比4億円減(同11%減)の37億円となった一方、営業アセットの増加に伴い貸倒関連費用が前年同期比48億円増(同30%増)の208億円となりました。また、その他営業費用は前年同期比6億円増(同2%増)の320億円となり、このうち人件費は前年同期比4百万円増(同1%増)の83億円、集客にかかる宣伝関連費用は前年同期比1億円減(同2%減)の54億円となりました。その結果、営業費用は前年同期比49億円増(同10%増)の566億円となりました。

#### ⑪ 営業利益・経常利益

以上の結果、営業利益は前年同期比1億円減(同3%減)の46億円、経常利益は前年同期比4億円減(同8%減)の49億円となりました。

#### ⑫ 特別利益

新株予約権戻入益の計上により2億円の特別利益を計上しております。

#### ⑬ 親会社株主に帰属する当期純利益

非支配株主に帰属する当期純利益△7億円を計上した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は52億円(前年同期比1%増)となりました。



# 連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

	前第2四半期 累計期間 (2018年4月1日から 2018年9月30日まで)	当第2四半期 累計期間 (2019年4月1日から 2019年9月30日まで)
⑭ 営業活動による キャッシュ・フロー	△ 27,981	△ 29,390
⑮ 投資活動による キャッシュ・フロー	2	△ 1,385
⑯ 財務活動による キャッシュ・フロー	50,555	18,627
現金及び現金同等物に係る 換算差額	50	△ 293
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	22,626	△ 12,442
現金及び現金同等物の 期首残高	29,323	36,108
現金及び現金同等物の 期末残高	51,950	23,665

(注) 記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しています。

## ⑭ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に営業貸付金などの営業アセットの増加による資金の減少などにより293億円（前年同期比5%増）の資金を使用しております。

## ⑮ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、無形固定資産の取得による支出などにより13億円（前年同期は2百万円の収入）の資金を使用しております。

## ⑯ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金や社債の発行による収入により、186億円（前年同期比63%減）の資金を得ております。



### ♥ 経営理念

## 誠実な企業活動を通じて、社会より支持を得る

経営理念にはアイフルグループが恒久的に追い求めていく方向性が込められており、経営理念の実現に向け、お客様のニーズに合わせた商品・サービスの提供により個人・法人・事業者のお客様からいつまでも支持・信頼されるよう取り組んでおります。

### ♥ アイフルグループ長期ビジョン

お客様の期待を超えるサービス・商品を提供し、国内外で信頼され、必要とされるグローバル金融グループを目指します。

アイフルグループは「経営理念」・「金融ビジネスの本質」に沿った経営を行う事で国内外で信頼され、必要とされるグローバル金融グループを目指します。

#### 〈経営理念に則った経営〉

アイフルグループの「経営理念」「心の指針」「行動の指針」「心構え」には、恒久的に追い求めていく方向性が込められています。経営理念の実現の為、我々はおお客様の期待を超えるサービス・商品の提供を続け、国内外のお客様から『信頼され、必要とされる』グローバル金融グループを目指してまいります。

#### 〈金融ビジネスの本質に則った経営〉

金融ビジネスの本質は「経営リスク管理」にあります。金融業におけるリスク管理とは、企業の永續のため、環境変化に常に対応できるよう「収益性」「安全性」「成長性」「人財力」のバランスをとることです。その実現の為にも、アイフルグループは金融の多角化を進め、海外進出の積極展開も行いグローバル金融グループを目指します。



## 会社概要

2019年9月30日現在

商号 アイフル株式会社(AIFUL CORPORATION)

本社所在地 京都市下京区烏丸通五条上る高砂町381-1

創業 1967年(昭和42年)4月

設立 1978年(昭和53年)2月

資本金 940億28百万円

代表者 代表取締役社長 福田 吉孝

社員数 2,219名(連結)

店舗数 870店(有人20・無人850)

ホームページ <http://aiful.jp>

## 社名の由来

アイフル(AIFUL)の社名

『愛情「Affection」と

努力「Improvement」をもって

誠実「Faithfulness」に仕事に臨み、

結束「Unity」と

活気「Liveliness」に満ちた会社』を意味しています。

## アイフルグループ一覧



無担保ローン・不動産担保ローン・事業者ローン・金融機関向け保証



クレジットカード・ミライバライ・キャッシング・  
アクワイアリング・プリペイドカード・金融機関向け保証 等



事業者ローン・不動産担保ローン・ファクタリング・診療報酬担保ローン 等



債権管理・回収・企業再生事業 等



ベンチャーキャピタル



自社割賦信用保証



債権管理・回収・企業再生事業 等



リース(中国・上海)



消費者金融(タイ・バンコク)



オートローン(インドネシア・ジャカルタ)



家賃債務の保証



- |       |     |   |
|-------|-----|---|
| 1967年 | 4月  | 現社長の福田吉孝が個人経営の消費者金融業として創業。                          |
| 1978年 | 2月  | 株式会社丸高（現アイフル株式会社）を京都市に設立。                           |
| 1982年 | 5月  | 株式会社丸高が関連会社3社を吸収合併し、商号を「アイフル株式会社」に変更。               |
| 1984年 | 2月  | ATM稼動開始。  |
| 1985年 | 3月  | 第1次スコアリングシステム（自動与信システム）導入。                          |
| 1994年 | 11月 | ハートフルセンター（現コンタクトセンター）の開設。                           |
| 1995年 | 3月  | 自動契約受付機「お自動さん」を設置。                                  |
| 1997年 | 11月 | 日本証券業協会に株式を店頭登録。                                    |
| 2000年 | 3月  | 東京証券取引所市場第一部に指定。                                    |
| 2001年 | 1月  | ビジネクスト株式会社設立。                                       |
| 2001年 | 3月  | 株式会社ライフの完全子会社化。                                     |
| 2001年 | 11月 | アストライ債権回収株式会社を設立。                                   |
| 2004年 | 3月  | 国際キャピタル株式会社（現AGキャピタル）の完全子会社化。                       |
| 2007年 | 4月  | 新経営理念を発表。<br>「誠実な企業活動を通じて、社会より支持を得る」                |
| 2011年 | 7月  | グループ再編を実施。  |
| 2014年 | 12月 | タイに合併会社「AIRA&AIFUL Public Company Limited」(A&A)を設立。 |
| 2015年 | 4月  | 中国上海でリース事業を営む上海三秀がグループ入り。                           |
| 2015年 | 10月 | A&Aが「A Money」ブランドでタイでの消費者金融業を開始。                    |
| 2015年 | 11月 | グループ会社のあんしん保証株式会社が東証マザーズへ上場。                        |
| 2017年 | 4月  | 創業50周年を迎える。   |
| 2017年 | 5月  | インドネシアで中古車オートローンを取り扱うREKSA FINANCEの株式40%を取得。        |
| 2018年 | 4月  | 企業の事業再生を行うアストライパートナーズを設立。                           |

## 社会

「お客様のため、社会のために、私たちにできること」という観点で社会貢献活動を推進しております。

### 〈市民ランナー応援企画「アイフルラン」〉

たくさんの笑顔に出会いたい、そして世の中をもっと明るく元気にしたい、そんな思いをこめてアイフルではチャレンジする市民ランナーの皆様を応援するプロジェクト「アイフルラン」を2013年に立ち上げております。また立ち上げ以降の協賛回



数は89回に上り、2020年3月期においては、給水場ボランティアとしてアイフル社員も参加している大阪城公園ナイトランなど、2019年9月末までに計3回の協賛を実施しております。

### 〈大学生向けハッカソンの後援〉

さまざまな専門分野の人材支援、協働活動を通じて「社会・地域との共生」を深めるべく、2019年3月に京都大学生向けのハッカソンへ後援して



おります。ハッカソンとは、hack(ハック)とmarathon(マラソン)からの造語で、プログラマーなどが複数のチームに分かれ、与えられたテーマに対し一定期間集中的にプログラムやサービスの考案などを行い、その成果を競うイベントです。

### 〈献血活動〉

血液の安定的な確保に協力するため、アイフルでは、日本赤十字社の要請に応じて、定期的に従業員を対象とした献血活動を実施しています。2020年3月期においては、アイフル本社、コンタクトセンターで計2回の献血活動を行いました。2017年には継続した活動が認められ、「滋賀県知事感謝状」を頂戴しております。





## 🍃 環境

社会の一員として地球環境に配慮し、環境保全に自主的に取り組んでおります。

### 〈クールビズ・ウォームビズへの取り組み〉

地球温暖化防止を目的に「クールビズ・ウォームビズ運動」に取り組んでおります。2006年から開始し、現在では服装基準やエアコンの設定温度の統一が行われ、全社的な運動となっております。

### 〈エコキャップ運動〉

ペットボトル・キャップを集めて再利用に供し、その売上で途上国にポリオワクチンを送る「エコキャップ運動」に取り組んでおります。

### 〈PET-Gカードの採用〉

アイフルを利用するお客様へ発行する「アイフルカード」は、焼却してもダイオキシンを発生しない地球環境に配慮した「PET-G樹脂」を採用しております。

## 🍃 Topics

### アイフルは「プラチナくるみん」の認定を取得しました。

「プラチナくるみん」は子育てサポート企業として「くるみん」認定を受けた企業のうち、仕事と子育ての両立支援制度の導入や利用が進み、より高い水準の取り組みを行った企業が認定されるものです。

アイフルにおいては2009年の「くるみん」認定の取得以降、男性社員の育児休業の取得促進や、育児休業者の職場復帰への支援などの積極的な取り組みによる実績が評価され、2019年10月15日付で厚生労働大臣（都道府県労働局長へ委任）より「プラチナくるみん」の認定を取得しました。





## 株式構成

(2019年9月30日現在)

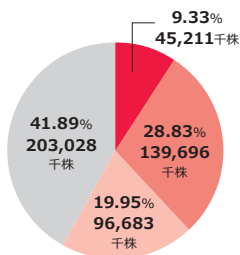
発行可能株式総数	1,136,280,000株
発行済株式総数	484,620,136株
(内、自己株式)	917,296株
株主数	29,984名

## 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社AMG (福田吉孝一族の資産管理会社)	94,814	19.56
福田 光秀	62,155	12.83
株式会社丸高 (福田吉孝一族の資産管理会社)	24,543	5.06
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	10,981	2.27
J.P. MORGAN SECURITIES PLC FOR AND ON BEHALF OF ITS CLIENTS JPMS RE CLIENT ASSETS-SETT ACCT	9,356	1.93
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	8,150	1.68
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 1300000	7,477	1.54
BANK JULIUS BAER AND CO. LTD. SINGAPORE CLIENTS	6,719	1.39
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	6,599	1.36
MSIP CLIENT SECURITIES	6,051	1.25

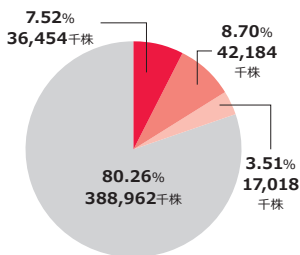
## 株式分布図

[所有者別]




- 金融機関等
- その他の法人
- 外国法人等
- 個人・その他

[所有株数別]



- 1万株未満
- 1万株以上 5万株未満
- 5万株以上 10万株未満
- 10万株以上

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、 あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	 0120-782-031
<b>インターネットホームページURL</b>	
<a href="http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html">http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html</a>	
単元株式数	100株
公告方法	電子公告
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
銘柄コード	8515

### 株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

アイフルグループのホームページでは、会社情報、サービス内容、IR情報など最新の情報を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



**アイフルIRウェブサイト**  
<https://www.ir-aiful.com/>

**アイフル株式会社**  
<http://aiful.jp>

**ライフカード株式会社**

- クレジットカード・法人カード  
<http://www.lifecard.co.jp/>
- プリペイドカード V-Preca  
<http://vpc.lifecard.co.jp/>

